

- 問1 製造品出荷額に占める工業分野別割合において、輸送用機械器具の割合が約半数を占め、全体の製造品出荷額等でも全国トップである愛知県の工業に関する説明として、最も適切なものはどれですか。（2022年 宮崎県公立入試 類似）
1. 製鉄所を中心とした鉄鋼業が発展し、臨海部に巨大な重工業地帯が広がっている。
 2. 石油化学コンビナートが形成され、化学工業の割合が最も高くなっている。
 3. 電子部品や半導体の生産が盛んで、内陸部の高速道路沿いに工場が集積している。
 4. 自動車工業を中心に発達し、豊田市などに大きな工場が集中的に立地している。
- 問2 愛知県や静岡県を含む東海地方の工業統計において、製造品出荷額の割合が他県に比べて突出して高い「輸送用機械器具」の製造に関する説明として、最も適切なものはどれですか。（2017年 奈良県公立入試 類似）
1. 海外から輸入した鉄鉱石や石炭を加工する製鉄所が沿岸部に集まり、金属製品の出荷額が最大となっている。
 2. 明治時代から続く繊維工業の伝統を引き継ぎ、現在も衣類や布製品の出荷額が産業の半分以上を占めている。
 3. 自動車の生産を中心としており、多くの部品工場が周辺に集まることで効率的な生産体制が築かれている。
 4. 高度な技術を要する電子部品や半導体の製造が中心であり、内陸部のIC付近に工場が集中している。
- 問3 人工林の面積が広い地域において、森林を健全に維持し、質の高い木材を生産するために行われる「間伐」の目的として最も適切な説明を次の中から選びなさい。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 樹木の間隔を広げて日当たりを改善し、残った木が大きく成長するように促すため
 2. 山火事の延焼を防ぐために、森林の中に一定の幅の空白地帯を設けるため
 3. 苗木を植えたあとに周囲の雑草を刈り取り、苗木に栄養が行き渡るようにするため
 4. 山の木をすべて一度に伐採し、大規模な宅地造成や耕作地の拡大を行うため
- 問4 日本の冬の気候において、日本海側の地域で大雪が降るメカニズムを説明した文として、最も適切なものはどれですか。大陸から吹く風の性質と、地形の影響に着目して答えなさい。（2022年 和歌山県公立入試 類似）
1. 太平洋からの湿った季節風が、日本海を渡る際に冷却され、海岸沿いの平野部で急激に結露することで雪を降らせる。
 2. ユーラシア大陸からの冷たく乾いた季節風が、対馬海流の流れる日本海を渡る際に大量の水蒸気を取り込み、本州の山地にぶつかって上昇することで雪を降らせる。
 3. リマン海流によって冷やされた大陸からの季節風が、日本海の水分を吸収せずにそのまま本州の山地にぶつかり、冷気だけを停滞させて雪を降らせる。
 4. 大陸からの乾燥した季節風が、日本海側で発生した上昇気流によって暖められ、水分を失いながら山地を越える際に雪を降らせる。
- 問5 四日市市などの工業都市を擁する三重県の工業的特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 愛知県公立入試 類似）
1. 高度な技術を要する印刷業が、重化学工業の出荷額を上回る規模で成長している。
 2. 伝統的な繊維工業が、現在でも県全体の工業出荷額の過半数を占めている。
 3. 出荷額において、パンや清涼飲料水などの食品工業が最大の割合を占めている。
 4. 輸送用機械や化学、石油・石炭製品などの重化学工業が中心となって発展している。
- 問6 中部地方の工業地域のうち、富山県などを含む北陸地方の工業的特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2025年 福岡県公立入試 類似）
1. 古くから繊維工業が盛んであったが、現在はバイオテクノロジーを用いた食品製造が産業の9割を占める。
 2. かつては豊富な電力を利用した金属工業などが発達し、現在も化学工業や金属工業の割合が比較的高い。
 3. 印刷業や食品工業など、都市型工業の割合が他の工業地域よりも非常に高い。
 4. 出荷額の大部分を輸送用機械が占めており、特に自動車の生産額が全国でも突出している。
- 問7 東海地方、特に渥美半島周辺で「電照菊」などの施設園芸農業が発達した理由と、その営農上の特徴を説明したものとして正しいものはどれですか。（2019年 鳥取県公立入試 類似）
1. 季節風を遮る高い山々に囲まれた盆地の気候を活かし、扇状地を利用してブドウやモモなどの果樹栽培を専門に行っている。
 2. 広大で平坦な土地を確保しやすいため、大型機械を導入して、小麦や大豆などを大規模に生産する土地利用型農業を行っている。
 3. 黒潮の影響を受けた温暖な気候を活かし、温室などの設備を用いて出荷時期を調整しながら、大消費地へ向けて生産している。
 4. 夏の冷涼な気候を活かして、他の地域で収穫できない時期に野菜を出荷する抑制栽培を行い、輸送園芸を成立させている。
- 問8 北陸地方の気候と産業の特色について述べた文として、正しいものを次のうちから選びなさい。（2017年 高知県公立入試 類似）
1. 季節風の影響を避けるために、石垣や防風林で囲まれた家々での精密機械工業が発達した。
 2. 冬は乾燥して晴天の日が多いため、広大な土地を利用した太陽光発電が主な産業となっている。
 3. 一年中降水量が少なく乾燥しているため、伝統的にため池を活用した綿花栽培が盛んに行われた。
 4. 冬の降水量が非常に多く積雪が見られるため、農閑期の副業として伝統的工芸品の製造が発達した。
- 問9 長野県で見られる地形とその土地利用について、自然環境に適応した産業の仕組みを説明したものとして最も適切なものを選択してください。（2021年 愛知県公立入試 類似）
1. 盆地の縁にある扇状地は水はけがよいため果樹栽培が行われ、標高の高い地域では夏の涼しい気候を活かした高原野菜の栽培が盛んである。
 2. 海岸沿いに形成された平坦な干拓地は大型機械の導入に適しており、小麦やてん菜を育てる大規模な畑作農業が展開されている。
 3. 火山灰が積もった広大な台地は水はけが悪いため、大規模な灌漑施設を整備することでサツマイモや茶の栽培を大規模に行っている。
 4. 河口付近に広がる三角州は水もちがよいため稲作が中心であり、冬の積雪期にはビニールハウスを用いた施設園芸農業が行われている。
- 問10 諏訪盆地における工業の歴史的な変遷と、現在の状況について述べた説明として、正しいものはどれですか。（2026年 新潟県公立入試 類似）
1. 明治時代から一貫して輸送用機械の製造が盛んであり、現在は広大な平坦地を利用した自動車の組み立て工場が集積している。
 2. 明治時代に盛んだった綿糸の製造から、戦後は重化学工業へと転換し、現在は輸入した鉄鉱石をもとに大規模な製鉄が行われている。
 3. 明治時代に盛んだったパルプ・製紙業から、戦後は石油化学工業へと転換し、現在はプラスチック製品の出荷額が全国有数である。
 4. 明治時代に盛んだった生糸の製造から、戦後は精密機械工業へと転換し、現在は電子部品や計測機器などの製造も中心となっている。
- 問11 北陸地方は日本海側に位置し、冬には季節風の影響で非常に多くの降雪量が見られます。このような自然環境のもとで、江戸時代以来の伝統技術や地元の原材料を活用した産業が発達した背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 滋賀県公立入試 類似）
1. 冬の間は積雪により農作業が困難になるため、農家の副業として手仕事による工業が盛んになった
 2. 広大な平野部において、冬でも温暖な気候を活かした二毛作が行われ、その加工品製造が広まった
 3. 豊富な雪解け水を工業用水として活用するため、冬の期間に限定して大規模な化学工業が行われた
 4. 冬の強い季節風をエネルギー源とした大規模な機械工業が、江戸時代から沿岸部で発達した
- 問12 静岡県から愛知県にかけての太平洋沿岸部において、農業産出額の内訳をみると野菜の割合が非常に高いという特色があります。このように、大消費地である都市に向けて野菜などを生産して出荷する農業形態を何といいますか。（2023年 福岡県公立入試 類似）
1. 穀物農業
 2. 自給的農業
 3. 園芸農業
 4. 近郊農業

答え合わせ・解説

問1	答え 4 自動車工業を中心に発達し、豊田市などに大きな工場が集中的に立地している。	製造品出荷額が全国1位の愛知県では、豊田市などを中心に自動車工業が著しく発達しています。石油化学コンビナートが盛んなのは三重県や山口県などであり、電子部品・半導体は九州地方や東北地方などの特徴となります。
問2	答え 3 自動車の生産を中心としており、多くの部品工場が周辺に集まることで効率的な生産体制が築かれている。	東海地方、特に愛知県は自動車産業が非常に盛んであり、完成車メーカーだけでなく、数多くの関連部品工場が集積しています。2014年の統計資料などにおいても、愛知県や静岡県では「輸送用機械器具（自動車など）」が製造品出荷額の大きな割合を占めており、日本の重工業を支える中心地となっています。選択肢にある繊維工業はかつての主要産業ですが、現在は輸送用機械にその座を譲っています。
問3	答え 1 樹木の間隔を広げて日当たりを改善し、残った木が大きく成長するように促すため	木が過密な状態になると、個々の木が細く弱くなり、森林全体の健康状態が悪化します。あえて立木の一部を伐採して隙間を作ることで、太陽の光を森の奥まで届け、光合成を活発にさせることが大きな木を育てるための鍵となります。これは良質な木材を生産するという経済的な側面と、山崩れを防ぐといった環境保全の両面において不可欠な作業です。
問4	答え 2 ユーラシア大陸からの冷たく乾いた季節風が、対馬海流の流れる日本海を渡る際に大量の水蒸気を取り込み、本州の山地にぶつかって上昇することで雪を降らせる。	冬になると、ユーラシア大陸上のシベリア高気圧から北西の季節風が吹き出します。この風はもともと冷たく乾燥していますが、暖流である対馬海流が流れる日本海の上を通過する際に、海面から大量の水蒸気を補給されて湿った空気へと変化します。この湿った季節風が本州の中央部を走る山地にぶつかって上昇し、雲が発達することで、日本海側の地域に大量の雪をもたらします。山地を越えた後の空気は乾燥するため、太平洋側では晴天の日が多くなるのが日本の冬の特徴です。
問5	答え 4 輸送用機械や化学、石油・石炭製品などの重化学工業が中心となって発展している。	三重県の工業は伊勢湾沿岸を中心に発達しており、特に四日市市の石油化学コンビナートや、鈴鹿市などの自動車産業が県内の経済を支えています。これらは重化学工業に分類され、製造品出荷額においても輸送用機械、化学、石油・石炭製品の順に高い割合を示しており、食料品や印刷といった軽工業分野に比べて圧倒的な規模を誇ります。
問6	答え 2 かつては豊富な電力を利用した金属工業などが発達し、現在も化学工業や金属工業の割合が比較的高い。	北陸地方の工業は、日本海側の豊かな水資源を背景とした水力発電による電力を基盤に発展してきました。そのため、電力消費の多い化学や金属といった分野が強みを持っており、統計資料においてもこれらの分野が一定の割合を維持している点が、他の地域（輸送機械が強い東海地方など）との明確な違いとなります。
問7	答え 3 黒潮の影響を受けた温暖な気候を活かし、温室などの設備を用いて出荷時期を調整しながら、大消費地へ向けて生産している。	東海地方の太平洋沿岸は、黒潮の影響により冬でも温暖な気候に恵まれています。この気候的条件に加えて、温室やビニールハウスなどの施設を導入することで、植物の成長を早めたり開花時期をコントロールしたりすることが可能になります。こうして生産された農産物は、中京圏や首都圏といった人口の多い大都市（大消費地）へ向けて出荷されます。盆地での果樹栽培は山梨県、冷涼な気候を利用した抑制栽培は長野県などの高地、大規模な畑作は北海道に多く見られる特徴です。
問8	答え 4 冬の降水量が非常に多く積雪が見られるため、農閑期の副業として伝統的工芸品の製造が発達した。	北陸地方の伝統産業は、厳しい冬の気候環境と密接に関わっています。十二月から二月にかけて降水量が急増し、気温の低下とともに雪に閉ざされる生活環境が、丁寧な手作業を必要とする工芸品づくりを育みました。これは、地域の自然環境が人々の生活様式や産業構造に影響を与えた典型的な事例です。
問9	答え 1 盆地の縁にある扇状地は水はけが良いため果樹栽培が行われ、標高の高い地域では夏の涼しい気候を活かした高原野菜の栽培が盛んである。	長野県では、山地から盆地へ流れる河川が作った「扇状地」が広く見られます。扇状地は砂礫でできているため非常に水はけが良く、稲作よりもリンゴやブドウなどの果樹栽培に適しています。また、標高の高い地域（高冷地）では、他の地域が猛暑となる夏でも涼しい気候を保てるため、レタスやキャベツなどの高原野菜を都市部の需要に合わせて出荷する抑制栽培が行われているのが特徴です。
問10	答え 4 明治時代に盛んだった生糸の製造から、戦後は精密機械工業へと転換し、現在は電子部品や計測機器などの製造も中心となっている。	諏訪盆地の工業は、時代のニーズに合わせて発展してきました。明治時代には主要な輸出品であった生糸を生産していましたが、戦後はその技術基盤を継承しつつ、時計やカメラに代表される精密機械工業へ転換しました。さらに近年では、技術の高度化にともない、小型で高付加価値な電子部品や、医療機器、計測機器などの製造へとさらなる多角化が進んでいます。綿糸や重化学工業は、主に沿岸部の工業地帯・地域の特徴であり、内陸の諏訪盆地には当てはまりません。
問11	答え 1 冬の間は積雪により農作業が困難になるため、農家の副業として手仕事による工業が盛んになった	北陸地方は冬に湿った北西の季節風が山脈にぶつかすることで、世界的な豪雪地帯となります。冬の間は積雪によって屋外での農作業ができなくなるため、農家の人々が収入を得るための副業として、室内で行える伝統技術を用いた地場産業が発達しました。
問12	答え 3 園芸農業	中部地方の太平洋側は、東京や名古屋、大阪といった大都市圏の中間に位置しています。この立地条件と発達した交通網を活かして、都市の需要に応じた野菜や花などを生産し、付加価値を高めて出荷する園芸農業が発展しました。